

帰化植物ノート(その1)

アワダチソウゲンバイの好き嫌い

植村 修二

2002年の夏、大阪府では例年より雨が少なかった。いつもの年であれば遅い空き地の帰化植物に元気がありません。少雨が原因かと思っていたのですが、よく見てみるとアワダチソウゲンバイの多発の方が大きく影響したようでした。とくに被害がひどかったのがアレチノギク・オオアレチノギク・ヒロハホウキギクで葉が白くなって部分的に褐変し全体的にかなり弱った個体も多く見受けられました。セイタカアワダチソウ・イヌキクイモ・コセンダングサも被害は著しいのですが、成長に伴う回復も見られます。それとは逆に、ヒメムカシヨモギにはあまり被害が出ていませんでした。

2005年、大阪府内の大阪市や堺市などでは、アレチノギクの個体数が激減しました。オオアレチノギク・ヒロハホウキギク・セイタカアワダチソウは個体数が

あまり変化しないものの、アワダチソウゲンバイの激しい被害を受けていました。

しかし、ヒメムカシヨモギはあまり被害はなく、鮮やかな緑の葉色で、遠くからでも枯れかけたアレチノギク・オオアレチノギクとはっきり見分けられました。

最近大阪府内では、優占する雑草がこの虫の被害でほぼヒメムカシヨモギとなっている空き地が増えました。以前はオオアレチノギクの方が多くみられました。「オオアレチノギクの侵入がない明治時代には、あるいは現在北海道へ行けば、夏の空き地はこんな状況かな?」と思いながらよくみると、このヒメムカシヨモギにもアワダチソウゲンバイの被害が及んでいました。しかし、ヒメムカシヨモギはあまり好みではないようだ。



オオアレチノギク(左)の被害は激しいが、ヒメムカシヨモギ(右)は鮮やかな緑である。

(左)：2002.8.29.大阪府堺市美原区, (右)：2005.9.9.大阪府堺市東区



オオアレチノギク・アレチノギクの被害は激しいが、ヒメムカシヨモギは鮮やかな緑である。

2009.8.30.大阪府大阪市東住吉区



ヒメムカシヨモギが優占する空き地(左)：2006.9.24.大阪府寝屋川, (右)：2009.10.14.大阪府堺市美原区



ニシキソウの仲間の見分け方

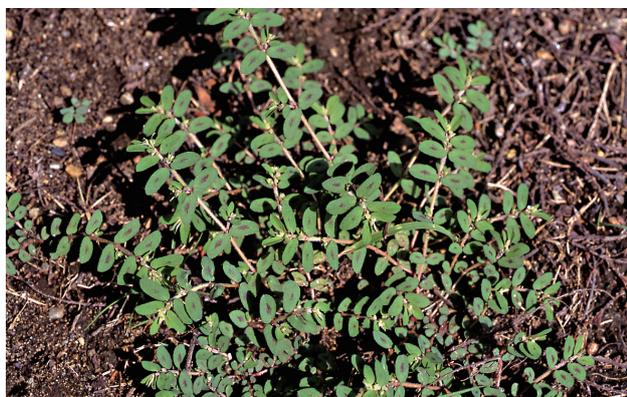
廣田 伸七

ニシキソウの仲間は畑地、芝生、庭などに普通にみられる。形は小型だが多くは地面にへばり着くようにして生育する。因みにコニシキソウ、ニシキソウの方言を調べてみたらジシバリ、ジバイグサ、ザブトングサと地面一面に這って広がる様子を現したものが、チーグサ、チチグサと茎を切ると白い乳汁を出す様子からつけられたものから、ヨメナカセと面白いものもある。ニシキソウの仲間は草は小さいが地面にピタッと張りついているので除草しにくく、しかも茎を切ると白い汁が出てきてそれが手に付くと黒く固まって洗っても容易には落ちない。うっかりその手で汗を拭くと顔が真っ黒になる。人によってはこの汁でかぶれることがある。正に嫁泣かせがピタリの表現である。

このニシキソウの仲間を写真で比較してみた。このうちニシキソウだけが在来種で他は総て帰化植物。



▲ニシキソウ；茎は紅く、普通二叉に分岐しながら横に這う。まばらに毛があり、葉に斑点はない。



▲コニシキソウ；茎は暗赤色を帯び白毛があり地表を這い、葉に斑紋がある。



▲オオニシキソウ；ニシキソウの仲間では一番大型。茎は紅色を帯び一方の側に短毛がある。葉には斑紋があるものかないものがある。



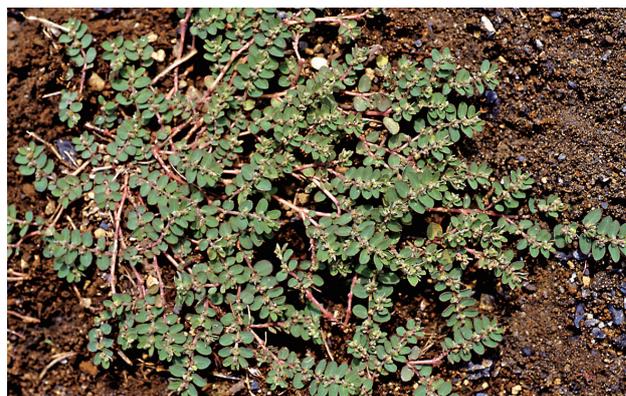
▲シマニシキソウ；茎は赤褐色～紫色を帯び、白色の短毛と黄褐色の長毛がある。葉には斑紋があるものかないものがある。



▲ハイニシキソウ；茎はよく分岐して地表を這い、白毛がある。葉の表面にまばらに毛があり斑紋はない。



▲コバノニシキソウ；茎は紅色を帯び基部でよく分岐し地表を這う。地に着いた茎はところどころで発根する。これは本種だけの特徴。



▲アレチニシキソウ；茎は暗赤色を帯び、よく分岐して縮れた白軟毛が密にあり地表を這う。葉には斑紋はなく、裏面に白軟毛が密生。